

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0490500113		
法人名	社会福祉法人 千香会		
事業所名	グループホームぼらん	ユニット名	
所在地	気仙沼市東新城1丁目3番3号		
自己評価作成日	令和 5年 10月 20日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai gokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会		
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階		
訪問調査日	令和 5年 11月 27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>同一敷地内に姉妹法人の小規模多機能型居宅介護施設とグループホームが併設している。普段から行き来しており、交流を深めている。災害時においても協力・連携体制が整っている。当施設では利用者様ができることに対して、役割を分担し活躍できる場の提供と実現を常に意識している。食事の準備や後片付け、洗濯物干しや洗濯物たため、縫物では雑巾縫い等の機会を作り、それを職員の見守りや共に行うことで、アットホームな雰囲気の中での生き生きとした生活につなげている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>三陸道気仙沼中央インターより車で約10分の東新城地区に位置し、商店や病院、事業所、住宅街の一角に1ユニットの「グループホームぼらん」がある。杵と臼を使い餅をついての正月、鬼の的にぶっつけゲームをしての節分、短冊に願いを書いて飾った七夕、野菜切りや皮むきを手伝い一緒に食べた芋煮会、飾って歌ってケーキを食べたクリスマス会など入居者と職員と一緒に行事を楽しんでいる。暖かい日には、近隣の散歩や初詣、花見、気仙沼市内にドライブに出かけ気分転換をしている。職員と外食や買い物に行き、自分で支払いをしている。職員は「笑顔・感謝・挨拶」の理念を活かした支援に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで身体や精神の状態に応じて満足出来る生活を送っている。 (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、やりがいと責任を持って働いている。 (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者の意思を出来る限り尊重し、外出等の支援をする努力をしている。 (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、医療機関との連携や、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	すでに利用者様が「成年後見制度」や「まもりーぶ」を活用しており、実例を通した学びの機会となっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に利用者様やご家族様に説明を行い、不安や疑問を尋ねながら十分な説明を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に意見箱を設置している。重要事項説明書への記載と玄関に苦情相談窓口を掲示している他、ご家族様に接する機会にはご意見を伺って業務に反映するよう努めている。	面会は、玄関先や面会室で、マスク着用の上短時間で行っている。親族が入居者の好きな菓子や飲料水を持ってくる。敬老会に家族から花や孫の手紙が届く。毎月の写真入りの便りを楽しみにしている家族が多い。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体ミーティングで管理者をはじめ、全職員が意見交換を行っている。代表者はその際に挙げた意見や要望に真摯に対応している。	代表は、職員の働きやすい職場環境の整備に、取り組んでいる。子育て職員のシフトの配慮や各資格取得の支援などを行っている。敬老会に、鶴を飾りつけたり、メッセージカードを作る等、新人職員の提案で実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の家庭事情を踏まえ、勤務時間や内容に制限がある職員に対しては話し合いを設けて継続勤務が可能になるよう対応している。意欲のある職員には各種支援も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格受験料の補助を行っている。研修に関してはWebでの研修なども活用し受講している他、市や介護サービス法人連絡協議会主催の研修に参加している。		
14	(9)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	姉妹法人との連絡を取り、常に相互の知識の更新や内部・外部研修および行事等の情報交換を行っている。	気仙沼・南三陸介護サービス法人連絡協議会の名刺交換会に参加し、各法人の新規採用者や異動職員と情報交換をしている。同敷地内の姉妹施設と行事を一緒にしたり、職員の交流など日常的にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が不安を感じないよう声掛けや話しやすい雰囲気づくりに努めている。利用相談の段階から要望や心配事を把握し、安心してサービスを受けることができるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様来訪時や連絡時には様子を伝えながら不安に感じていることを伺い、話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点より聞き取りを行い、利用者様・ご家族様が求める支援を把握し、適切に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が暮らしの中で可能な活動や好む活動を把握し、一緒に作業や活動に参加していただいている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時に近況報告を行うとともに、家庭での対応方法なども伺う等、共に本人を支えていく関係を築くよう心掛けている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様との面会は窓越しや面会室を活用している他、電話を活用して本人と話していただくことで関係維持に努めている。	海外在住の家族や孫がひ孫を見せに来訪している。見慣れた気仙沼市内の風景を眺めながら、大島までドライブをした。仲良し同士朝起きた時に、居室で一緒にベッドに座り菓子を食べたりお喋りをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設生活の中で、性格や相性等を考慮して利用者様同士のコミュニケーションや良い関係が維持できるよう配慮しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も、いつでも立ち寄っていただけるよう声掛けしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個別にゆっくりと話をする機会を設け、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。また、要望を伝えられない方については利用者様の立場になって考え対応している。	中学卒業後の出稼ぎの苦労話を傾聴している。「ラーメンや寿司を食べたい」の思いを職員と一緒に外食し叶えている。自己決定の難しい方には、二者択一で選んでもらったり、生活歴から思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に利用者様やご家族様から生活歴や情報を聞き取り、入居後もできる限り以前と同じ生活ができるよう環境づくりを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の生活状況を記録し、一人ひとりの過ごし方ができるよう努めている。		
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常の気づきを記録し、その事実を基に課題解決に向けて月1回の全体ミーティングで話し合っケアに反映させている。	家族の「ストレスなく穏やかに過ごしてほしい」要望があり外出の機会や他入居者との交流をプランに入れた。摂食困難になった方は、医師の指示で点滴や栄養食品を摂るようにプランを見直した。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録・受診記録の他、職員の連絡ノートを活用し情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の自宅へ職員と一緒に伺い、夏冬用衣類の入れ替えや郵便物・チラシの処分等本人の個別ニーズに柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ等の感染症に配慮しつつ、ボランティアとの交流を再開しており、地域とのつながりを徐々に増やすことができている。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前から受診しているかかりつけ医を継続している。ご家族様が同行する場合も状態変化や様子を的確に伝えられるよう記録を渡している。	全員がかかりつけ医を継続している。通院時はバイタルや日々の状態を話し、職員が家族が付き添い受診している。結果は、受診記録に記載している。夜間や緊急時は管理者に連絡し、指示を仰ぐ体制になっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の健康状態を観察・記録し、気になることや状態変化が見られた場合はかかりつけ病院に情報提供を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した際には、主治医・看護師・地域連携室と情報共有を行い、状態の把握とリハビリの状態を確認している。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に看取りの指針をお渡しし、要望があればいつでも相談の場を設けることを伝えている。	入居時、看取りに関する指針を説明し同意を得ている。重度化し、食事が摂れなくなり、医療行為が必要になった段階で、医療機関に入院をする事を家族や職員と一緒に検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、特変時の対応をマニュアル化して整備し、定期的に緊急時の初期対応を勉強会で確認、共有している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災発生時の避難訓練を定期で実施している。また、地震、水害に関する避難場所や避難経路について内部研修を実施し、全職員が把握している。	夜間想定を含む避難訓練を年2回実施している。消防署員や入居者、職員が参加している。署員より「受信機で火災場所を確認する操作は良かった」「発生後に近くの窓から避難させる事を考慮する事」などの講評があった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	年間事業計画に基づいて定期的に勉強会を行う他、全体ミーティングの中で声掛けや言葉を選ぶよう指導と確認を行っている。	名前は「さん」付けで呼んでいる。同じ目線で、理念に添って「笑顔、感謝、挨拶」で接するように心掛けている。失敗した時は、周囲の方に配慮しトイレに誘導している。好きな詩吟や塗り絵などの継続支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の支援において、利用者様の意思や希望を確認している。自己決定が難しい方については選択をしていただけるよう配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分、趣味に合わせて個人のペースで過ごしていただけるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着たい服や髪型等、選択・判断していただくよう支援している。また、着替えの際、職員と一緒に選んでいただくなど配慮している。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が立てた献立を参考にして、調理担当職員が調理している。また、誕生日や行事の際にはリクエストメニューを、準備の段階から利用者様と職員と一緒にやっている。	誕生日や敬老会などの行事は、希望でラーメンやカレーライス、刺身などを食べている。正月は、一緒に臼と杵で餅をついて、あんこ餅と納豆餅を食べた。職員と一緒に好きなラーメンや寿司を外食している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量や水分摂取量を記録し、野菜が嫌いな方や水分が不足気味の方については、個別に野菜ジュースやヤクルトなど個別の好みの物を準備し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後声掛けを行い、歯磨きを行っている。利用者様によっては必要な支援(口腔ケア)を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を活用し、個々の排泄パターンの把握に努め、誘導や声掛けを工夫して、トイレでの排泄ができるように支援している。	自力でトイレに行く方や車椅子、声掛け、パッドの交換の支援をしている。落ち着きが無くなるなどのサインを把握し、個別に排泄支援をしている。夜間帯は、時間での声掛けやパッドの大きさなどに対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床時に牛乳を提供したり、おやつとしてヨーグルトを提供している。また、毎日体操を行い、体を動かすようにして便秘を予防している。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	利用者様の意向を確認して入浴していただいている。少なくとも週2回の入浴の機会を確保している他、失禁等必要に応じての対応も行っている。また、同性介護を希望する方についても対応している。	熱め温めや同性介助など、本人の希望に沿った支援をしている。拒否の方は、時間を置いたり「明日病院に行くから」等声掛けに工夫し入浴に繋げている。好きな詩吟や童謡を歌いながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様それぞれの状態に合わせて休息をとっていただいている。暗くなることに不安を訴える方に照明スタンドを準備する等、工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録に医師の指示や注意点を記録している。薬が変更になった際は連絡ノートに記載して全職員で確認把握ができる仕組みにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の準備や歌・詩吟・塗り絵等、利用者様の意向や生活記録を参照し、好む活動を把握しながら支援している。		
49	(20)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響により、お花見以降の外出(みなど祭り・紅葉狩り)は実施できなかったが、個別の希望により外出や外食、買い物等を職員と一緒に楽しんでいただいている。	暖かい日は、ホーム周辺を散歩したり花の苗をプランターに植えたりしている。琴平神社の初詣や唐桑町保険福祉センターの花見、大島にドライブなどに出掛け楽しんでいる。個々の希望で、職員と一緒に外食や買い物に行き、自分で支払いをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要な金額をお預かりし、ホームの金庫で管理させていただいている。希望者や外出時には自由に使うことができることをお伝えしており、個別の買い物会や外食会の折は、ご自身で財布から支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方は自由に家族や友人と話す機会を持つことができている。また、希望があれば施設の電話を利用して家族と話すことができる。		
52	(21)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコンと加湿器、空気清浄機で空調を管理し、季節の草花を飾ったり、行事の写真や季節の壁飾りをするなど居心地よく過ごせるよう支援している。	ホールは、天窗があり明るく自然な光が差し込んでいる。職員と一緒に作った季節のブドウや柿などの貼り絵を壁に飾っている。テレビを見たり、縫い物をしたり、体操や童謡を歌うなど、入居者の憩いの場になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者様同士が同じテーブルやソファー席にて会話を楽しまれている。		
54	(22)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや机等を持ち込んでいただき、希望者はテレビや冷蔵庫も持ち込んで活用していただいている。また、大切な人の写真や好きな芸能人のポスターを飾っている。	位牌やお骨、代々の法名を書いた過去帳などを持ち込み、毎朝拝んでいる。夫婦で撮った写真や好きなタレントの写真を多数飾っている。好きな縫い物やドリルをしたり、携帯電話で家族と連絡を取り合っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内の表示や居室の名札は利用者様の目線の高さに設置し、車椅子の利用者様が動きやすい配慮するなど施設内を安全で自由に動ける工夫をしている。		